

◆二十一番(中野雅史) (登壇)自由民主党の中野雅史でございます。ただいまから一般質問をさせていただきます。

話題のリニア中央新幹線についてお伺いをいたしたいと思います。

顧みますと、今から十三年前、平成十一年の私の初当選、初質問に、このリニア中央新幹線の質問を当時の柿本知事にさせていただきました。リニア中央新幹線に関しまして十三年ぶりとなる今回の質問は、荒井知事と教育長にさせていただきます。よろしくお伺いをいたしたいと思います。

リニア中央新幹線は、昭和四十八年十一月、国において基本計画が決定されて以来、約四十年という歳月を経て、昨年五月、奈良市付近を主要な経過地として整備計画が決定をされたところでございます。県の未来の発展、そして県民にもたらす希望と勇気という点におきましては、これほど喜ばしいことはございません。我々県議団も、東京・大阪間の早期の全線同時開業と奈良市付近への中間駅設置に向け、総力を挙げて取り組まなければならないと決意を新たにいたしておるところでございます。

ここで振り返ってみますと、今から二十二年前の平成二年九月三十日、日本青年会議所奈良ブロック協議会主催で、リニアシンポジウム古都奈良よりリニアのベルが鳴るを県新公会堂において開催をさせていただいたことが、私の脳裏に鮮明に思い出されてまいります。

当時、不肖未熟の身でありながら、時の会長として主催者代表のあいさつに立たせていただきました。リニア中央新幹線奈良駅の誘致によって、奈良県をどのように発展させていくかという点が論じられなくてはならない。活力ある奈良県地域の将来像とリニア中央新幹線奈良駅誘致を一体的に考えてこそ、この構想実現に迫力が生まれると確信するといった趣旨のことを述べさせていただいた記憶があります。このリニアシンポジウムの内容は、豊かで熱っぽく盛り上がったことをよく覚えております。

特に、来賓としてお招きをいたしました当時の上田繁潔知事が、シンポジウムの冒頭のあいさつで、県内の青年団体がこんなに応援してくれているのに、京都府には負けられないと語られたことを忘れることができません。その子息が現大和郡山市長上田清その人であることは、ご承知のとおりでございます。

厚かましさを招致の上でつけ加えます。この年の二月、つまり平成二年二月、衆議院総選挙時に奈良入りをした当時リニア中央新幹線担当の江藤隆美運輸大臣にリニア中央新幹線の奈良駅誘致を青年会議所のメンバーと一緒に直接陳情いたしました。その際、大臣が、傍らにいた鍵田忠三郎衆議院候補者に、奈良県の青年は活発、元気ですな、この分ではどうしても奈良県を通るようにせんといけませんなとつぶやかれたエピソードなども今よみがえってまいります。

当時、鍵田忠三郎先生のご子息で、秘書でもあった鍵田忠兵衛氏や奈良市議会議員であった荻田義雄現県議会議員も青年会議所のメンバーとして立ち会っていただき、ご協力いただきました。荻田議員、その当時はどうもありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いをいたしたいと思います。仲よくやらせていただきたいと思います。ただ、残念なのは、鍵田忠兵衛県議会議員は、昨年、ご存じのとおり急逝されましたが、亡くなる少し前に、中野ちゃん、リニア中央新幹線の件で急に大和郡山市が騒がしくなってきたな、とうとう来るなと、二十二年前の若きころのリニア中央新幹線誘致活動を思い出し、懐かしく二人で語り合いました。未来を担う奈良の青年たちが、そして多くの政財界人や県民が、今日まで粘り強く行動をしてきたことが底流となって、今この奈良にリニアのベルが鳴るという現実感、具体像につながっていると思うわけであり、さらに後輩に引き継いでおります。

さて、荒井知事が会長を務めておられるリニア中央新幹線建設促進奈良県期成同盟会の平成二十三年七月十五日の総会で、奈良市付近を主要な経過地として整備計画が国に

平成24年 9月 定例会 308回 中野議員

において決定されたことについて、新幹線や高速道路などの高速交通機関のいわゆる国土軸から外れてきた本県にとって大変大きな前進であると評価をし、リニア中央新幹線の東京・大阪間の早期の全線同時開業及び奈良市付近への新たな駅の設置に向けて、一致協力して運動を展開すると決議されたことに敬意を表するものでございます。

今、日本は、東日本大震災という未曾有の国難に遭遇し、復興に全力を注いでいるわけですが、本年四月に三重県で開かれた第二十三回紀伊半島知事会議では、リニア中央新幹線は、災害に強い国土づくりの観点から、東海道新幹線の代替機能に配慮すること、また、中間駅の設置に当たっては、紀伊半島全域に高速輸送機能がもたらす効果が等しく行き渡るように、交通結節の高い位置を考慮すべきであると確認したと承知をいたしております。

現在、この中間駅、つまり奈良市付近に誘致する新たなリニア中央新幹線新駅について、私の地元大和郡山市と生駒市が手を挙げております。つい先日も、万葉文化館において、市町村長サミットの中でリニア中央新幹線のプレゼンテーションがあり、私も参加をさせていただきました。

大和郡山市では、上田市長が先頭に立ち、交通結節性の高さによって、県全体はもちろん、紀伊半島に広がりニア効果が波及すること、県の人口重心への近接など、優位性をアピールし、市民全体の運動につながっております。

さきに申しました紀伊半島知事会議で確認された理念について私なりに申しますと、奈良県の新駅は、より遠くからより多くの来客を迎え、そこから県内や紀伊半島各地に出かけていただく、空港のごとき紀伊半島の駅というキーワードを有しているのではないかと考えております。そうすると、おのずと新しい駅の位置はどこがふさわしいのか浮かび上がってくると思うのであります。

JR東海は、地元調整については県知事をお願いするとの考えを表明されているということでございます。ぜひとも荒井知事におかれましては、今までどおり強いリーダーシップを発揮していただきたいと考えております。

私は、リニア中央新幹線新駅の設置が県民に未来への希望と勇気をもたらすと冒頭で申し上げましたが、特に子どもたちに与える影響ははかり知れないと思っております。平成元年の十一月一日という一ぞろいのよき日のことであります。地元大和郡山市の子どもたちにリニア中央新幹線への夢を書いてもらって、タイムカプセルにおさめ、三十年後に取り出す約束をいたしました。あと六年後であります。カプセル開封時は、当時の子どもたちは四十歳前後になっているはずであります。郡山城址の一角でカプセルを開きます。四十歳になろうとする当時の子どもたちがどんな夢を描いていたのか、わくわくして待っている次第であります。そのときには、大和郡山市にリニア中央新幹線奈良駅設置決定という、当時の子どもたちにとっても、そして私にとってもドラスティックな展開を期待したいと思っております。

そして、リニアのベルを鳴らすために必要なこと。それは、リニア中央新幹線新駅の設置により奈良が飛躍するためのグランドデザインを今から描いておくことだと思います。例えば、交通結節性のよさを生かしまして、リニア中央新幹線新駅の設置に合わせ、国や県などの公的機能の設置、新たな産業集積地の開発など、リニア中央新幹線新駅を中心とした新しいまちづくりを今から検討していく必要があるのではないかと考えます。

そこでお尋ねをいたします。知事は、リニア中央新幹線新駅を中心とした新しいまちづくりについて、お考えをお持ちであると思えます。ご所見をお伺いしたいと思います。さらに、教育長にもお伺いをいたします。未来の乗り物、夢や希望を乗せるリニア中央新幹線を教育の材料として活用するつもりはございませんか、ご答弁をお願いいたします。

◎知事(荒井正吾) (登壇) 二十一番中野議員からのご質問が、私に対して二問ございま

した。

リニア中央新幹線のグランドデザインと大和まほろばスマートインターチェンジについてでございます。

リニア中央新幹線についてでございますが、本県は新幹線停車駅や空港がございませんでした。高速交通機関による国土軸から外れてきたのは、山梨県、三重県、奈良県の三県だけでございます。昨年五月にこの三県を通過するリニア中央新幹線の整備計画が決定されたことは、我が県にとりまして大きな前進でございます。主要な経過地と明記されております奈良市付近に中間駅を建設されることは、国の法のもとで決められておると認識しております。

二十一世紀は交流の時代と言われますが、時速五百キロメートルで東京・大阪間を約六十分で結ぶリニア中央新幹線が整備されるという意味でございますが、東京、名古屋、大阪の三大都市圏が一つになった場合の人口は、約七千万人でございます、交流人口と言われますが、このような大規模な交流人口を有する大規模交流リニア都市圏が誕生するということでございます。その大交流圏の軸の中に奈良が位置づけられるということは、奈良県政にとって、歴史上画期的なことだと思います。

我が国は、国土軸を中心に発展してしてきました。国土軸につながることは、各地域にとって大きな望みでございました。これまでの奈良県では、新幹線や幹線高速自動車道などのような国土軸を形成するナショナルプロジェクトと言われるものは、全くございませんでした。県内のインフラ整備もおくれぎみでありまして、京都や大阪を玄関口として国土軸につながる地域でございました。

リニア中央新幹線による交流人口の大幅な拡大及び拠点となる中間駅の設置は、観光や産業に大きな影響を与え、奈良県の発展のために大きな役割を果たすことは確実であると思えます。議員お述べのとおり、奈良県の将来についてグランドデザインを描いていくことは、今後の奈良県の飛躍の図柄と色彩をどのように描くかということにもなり、取り組むべき重要な課題だというふうに思えます。

グランドデザインをもとに、具体的なまちづくり、地域づくりの整備計画をつくっていくことになりませんが、そのためには、駅をどこに設置するかをまず決めることが何より重要でございます。

奈良県の玄関口としてふさわしく、駅を中心に、県内のみならず紀伊半島全域に便益が広がるようなリニア中央新幹線新駅の位置が決まれば、それに基づき、奈良の将来の大きな発展となるグランドデザインの形を描いたり、具体的な計画を立てていけると考えます。

現在、リニア中央新幹線奈良駅につきましては、大和郡山市、生駒市から設置要望が出されております。九月十日には市町村長サミットを開催して、そこで両市から意見を述べていただきました。その意見開陳を踏まえた県下市町村長の意見を改めてお聞きしたいと思えます。県として候補地の絞り込みができるよう検討してまいりたいと思っております。また、そのような動きと対応しながら、リニア中央新幹線新駅のある奈良県発展の姿を思い描いていきたいと考えております。

◎教育長(富岡将人) (登壇) 二十一番中野議員のご質問にお答えいたします。

リニア中央新幹線について、リニア中央新幹線を教育の教材として活用する予定はあるのかのご質問でございます。

リニア中央新幹線は、現行の新幹線とともに未来の日本の国民生活及び社会生活を支える大動脈と想定されており、議員お述べのとおり、昨年五月に奈良市付近を主要な経過地とする整備計画が決定されたところでございます。

このたび、県教育委員会では、平成二十五年度から県立高等学校に入学するすべての生

平成24年 9月 定例会 308回 中野議員

徒を対象に、郷土の伝統、文化等についての奈良県独自の学習、ネーミングを奈良タイムとしております。奈良タイムを実施することとしております。この奈良タイムのねらいは、一、郷土の伝統、文化等に対する興味、関心や理解を深めること。二、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うこと。三、国際社会の中で自立した社会人として生きる力を身につけることとしていただいております。

お尋ねのリニア中央新幹線についても、近く配付する予定の、この奈良タイムの指導事例集において三十一の指導事例のうち、奈良の道について考える事例の中で大まかな整備の図を示しながら、計画の簡単な内容や新しく交通路が開く未来の道への期待に関する話題として、一口メモでも取り扱っているところでございます。

なお、この奈良タイムにより、奈良県人として郷土に深い関心を持ち、国際社会の中で自立した社会人として生きる力を身につけて社会に巣立ってほしいと考えているところでございます。

◆二十一番(中野雅史) それぞれにご丁寧にお答えをいただきまして、感謝申し上げますところでございます。

リニア中央新幹線に関しましては、JR東海が地元知事に地元の調整を任せるということでございますので、知事、一汗も二汗もかいていただきますようお願いを申し上げておきたいと思っております。

教育長、ご苦労さまでございます。何かと批判される教育委員会でございます。私ども政治家もそうでございますけれども、しかし、一生懸命やっていたいことは承知のとおりでございますけれども、対応マニュアル、できるのを楽しみにいたしておりますし、どうぞそれを実行できるようにお願いをしたいと思います。

それから、リニア中央新幹線、これ、取り上げていただいてありがとうございます。素早い対応にそれは評価をさせていただく次第でございます。

以上で質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。